

第3章 21世紀の女性教師像

第1節 今後の希望

1) 希望したい講習会

「今後参加したい講習会又は研修機関がありますか」

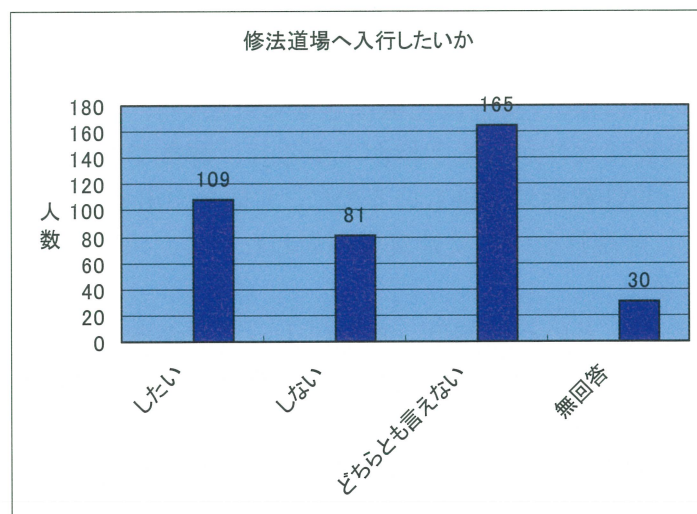
布教に関する講習会	26人
声 明	20人
教義を学びたい	15人
ビハーラ講習会	15人
心理学の講習会	10人
地域の講習会	4人
読 誦 会	3人
修 法	2人
和 讃	2人
靈 断 法	2人
唱 題 行	2人

多くは、宗門ですすでに行っている講習会ですが、様々な事情により受講しにくい状況がある中で、もっと学びたいという女性教師の切実な希望が伺われます。

2) 荒行入行に対しての意欲

「女性のための修法道場が出来たら入行したいですか」

「したい」と答えた方が約3割いました。「修法道場」は現在、宗門としては女人禁制の修行。これは単なる性差というのではなく、生死をかけた過酷な荒行ゆえに体力、健康面や安全に配慮があると思います。しかし、それを承知の上で「したい」と言う女性教師の修行に対する意欲を感じることができます。



3) 将来活動してみたいこと

日蓮宗の女性教師としてこれから活動してみたいこと

社会活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・62人

悩み相談、福祉活動、子供達への布教、親たちへの布教、老人介護等

布教したい・・・・・・・・・・・・・・・・・・38人

方法として

霊断法・修法・行脚・茶道・華道・書道など、海外布教等々

自行をしたい・・・・・・・・・・・・・・・・・・17人

女性教師の組織活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・12人

その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・13人

高齢のため活動できない、他宗の人を教化したい等

この調査で特記すべきと思われることは、ほとんどの女性教師が「布教したい」と回答していることです。そしてその手段としては、女性の修法、霊断法、唱題行、行脚などであり、自らも修行をしながら尼僧としての立場でアドバイスしたり、手助けをしたり、社会的な活動として、悩み事相談・ビハーラ活動・ボランティア活動などを希望しています。

言い方を変えれば、地域性もありますが、葬儀法要などの儀式典礼には女性教師は出座しなくても良いと言う声もあるなかで、社会の中で悩む人々へ手を差しのべる事を望んでいます。その対象は、青少年、子供を育てる親たち、高齢者、老人介護者などです。

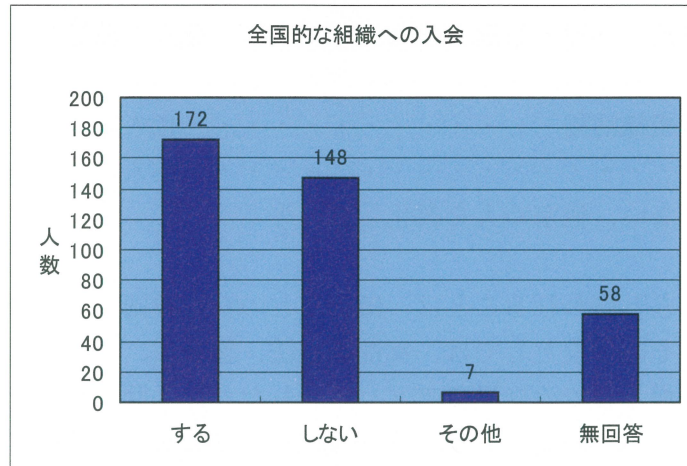
今回のアンケート調査では、男性教師と同様な立場ではなく、尼僧ならではの活動をしながら、自分自身を磨いていきたいという思いが伝わってきました。周知のように宗教は、「抜苦与楽」を実現する救済の行動であり、とくに尼僧は社会に苦しんでいる人々と共に、健やかに楽しく共生していく手だてとして、日常生活の着衣喫飯にわたって法華経・釈迦仏・日蓮聖人の教えを伝えることが使命のはずです。そのためにも、社会的な弱者を救済するためのカリキュラムを宗門に期待していると言えます。



4) 全国女性教師会への入会意志の有無

「女性教師の全国的な組織が結成されたら入会するか」

「しない」と答えた人の多くは高齢者で、気持ちはあるが出席することが出来ないという回答が多かった。約半数の回答者が横の繋がりを必要としていました。



5) 信行道場についての希望

「信行道場について思うことがありましたらお書き下さい」

- 期間を長くして欲しい・・・24人
- カリキュラムを検討し直して欲しい・・・29人
- 主任を始め指導者の人選を考えて欲しい・・・9人
- 道場生活への要望・・・10人
- 入場前の教育の充実・・・10人
- 補教存続の希望・・・8人
- 補教・特別の格差を無くして欲しい・・・4人
- 補教・特別の格差を残すべき・・・2人
- 補教・特別を統一すべき・・・13人
- 修了後の研修の場を希望・・・12人
- 満足している・・・20人

35日間では学び足り無いと思っている方が多く、修了後も継続して学びたいという声が多くありました。カリキュラムについては声明中心で、もっと教学・布教について学びたいという声が多数でした。また、補教信行道場廃止など、多くの女性教師の声を聞き論議を尽くす必要があったと思われます。